



新展示スペース『ハタオリマチ案内所』を開設！

～織物のまちを全国へ発信！～

山梨県絹人繊維織物工業組合
富士吉田織物協同組合

山梨県絹人繊維織物工業組合と富士吉田織物協同組合(渡辺教一理事長)は、富士吉田市の支援を受け、組合事務所の移転に合わせて5月1日に組合活動の新たな拠点として製品展示をする『ハタオリマチ案内所』を富士急行線富士山駅に隣接地にオープン、織物のまちを全国に発信して拠点として活動を開始した。

山梨県の富士北麓地域は古くから続く織物産地として栄え、「甲斐絹」の伝統を受け継ぐ細番手・先染・高密度を特徴に、小回りのきく生産体制を活かし、全国的にも類をみない多様なアイテムを生産できる産地となっている。

一方、織物産地としての認知度が全国的にも低く、約1,000年前から続く歴史のある織物産地を全国へ発信したいという思いから、組合青年部を中心に4年ほど前からPR方法などを検討してきた。



オープニングセレモニー

検討の中で「織物産地ヤマナシ」の魅力体験できる共同の売り場を設けたいとの思いから、ハタオリ職人が織り上げた製品を直販できる機能と物産案内の機能を一体化させた施設を開設することになり、今回、組合事務所の機能もあわせた『ハタオリマチ案内所』のオープンとなった。

富士急行線富士山駅は国内外を問わず最も観光客が見込める場所で、オリジナルブランド開発を積極的に行っている組合員の製品を展示するとともに、エンドユーザーのニーズをリサーチし現代のライフスタイルにマッチした富士吉田の織物の独自性を生かしたオリジナル製品として展示販売も行っていくこととしている。

渡辺教一理事長は、「確かな技術に裏付けされ富士北麓地域の織物業界の新たな一歩として体験や購入もできる新たな展示場にご来店いただき、実際に手に取って郡内織物の品質の高さを実感してもらえれば幸いです」と話す。



内覧会の様子